

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県	大阪府
------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高槻市立北清水小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	17
児童数	58	68	53	56	77	79	9	400	

研究の概要

1. 研究主題

学校教育目標「明るく（自立）・楽しく（共生）・たくましい（創造）子どもの育成達成」のため、学力向上フロンティアスクールの実践研究の中で「わかる・楽しむ・チャレンジする」学びを構築する。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・4, 5, 6年生・算数科（少人数授業）
児童の理解の状況に格差の出やすい教科、学年であるため。
- ・1, 2, 3年算数
学校として当該教科に関する研究の積み重ねがあるため。

(2) 年次ごとの計画

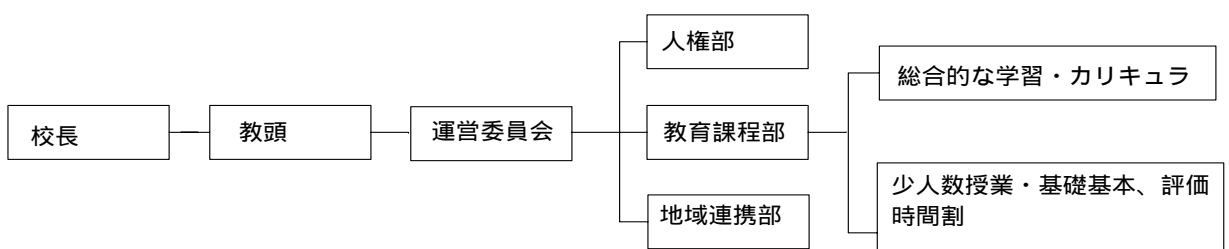
平成15年度	<p>テーマ</p> <p>『主体的に行動し、表現できる子どもの育成を目指す。』 - わかる・楽しむ・チャレンジする -</p> <p>研究の見通し</p> <p>本校の教育理念は「『教育』は『郷育』」であり、学校のさまざまな活動に地域・保護者の支援を受けている。そのような本校の特徴を踏まえ、学力向上についても、基礎・基本を大切にしながらも、より広い意味での学力を高める取り組みについて研究を進めている。研究の中心である算数科の少人数授業の取り組みにおいても、個に応じた指導方法・指導形態（習熟度別学習）の工夫改善、問題解決学習を進めるが、児童一人一人が納得し、学ぶ楽しさを実感し、未来に向けての学びの基礎となっているか、常に検証していくことを大切にしている。</p>
--------	---

平成15年度	<p>研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導など、よりきめ細やかな指導ができるように指導方法・指導形態（習熟度別学習）の研究や実践を行う。 ・授業の振り返りや、自己評価カードの作成 ・児童が意欲的・主体的に学習できる学習材・学習具の工夫・開発を行う。 ・基礎・基本の定着や学力の向上を目指した授業づくりの研究を行う。 ・発展的な学習、補充的な学習など個に応じた指導のための学習材の開発を行う。 ・教師間の連携など効果的な支援と評価の在り方の研究を行う。 ・モジュール時間と学習形態との関係を研究し、効果的に個に応じた指導方法を進める。 <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育アドバイザーを継続的に招聘し、指導計画・学習材・学習具の開発・指導方法・評価などを研究する。 ・少人数授業による公開授業を行い、分割方法などの指導形態また、効果的な展開の方法など、指導の在り方などを研究していく。 ・算数科の基礎・基本の定着をはかるために、学習達成度の測定の方法の研究をする。 ・授業改革の視点で固定モジュールの時間割編成における算数の具体的なカリキュラムを作成する。 ・算数科の良さに関わる活動を、他教科、総合的な学習と関連づける。 ・加配教員をはじめ、できるだけ多くの教員が先進校を視察したり、府や市の教育センター主催の研修に積極的に参加し校内の研究に活かす。
平成16年度	<p>テーマ</p> <p>『主体的に行動し、表現できる子どもの育成を目指す。』</p> <p>- わかる・楽しむ・チャレンジする -</p> <p>研究の見通し</p> <p>2月末に行う予定の学力実態調査の結果を踏まえ、本年度の取り組みの成果と課題を明らかにし、16年度の研究を進めていく。現在、研究のポイントとして考えているのは、次の4点である。第一に、算数科の特性を生かし、低・中・高と系統的な基本的学習過程を設定することである。第二に、さまざまな集団を構成することによって、児童が自らの可能性を引き出す学びを設定することである。第三に、児童自身が自分の課題を見据えた補充、発展的な学習を設定することである。最後に、地域の教育力を活用することで、学びの主体としての力を育むと共に、地域を担う人材を育成していくことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科のよさに関わる活動を、他教科、総合的な学習と関連づける。 ・加配教員をはじめ、できるだけ多くの教員が先進校を視察したり、府や市の教育センター主催の研修に積極的に参加し校内の研究に活かす。

平成16年度	<p>研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低・中・高と系統的な基本的学習過程を設定し、児童が意欲的・主体的に学習できる授業づくりの研究を進める。 ・ 個に応じた指導など、よりきめ細やかな指導ができるように指導方法・指導形態（習熟度別学習）の研究や実践を行う。 ・ 基礎・基本の定着や学力の向上を目指した授業づくりの研究を行う。 ・ 発展的な学習、補充的な学習など個に応じた指導のための学習材の開発を行う。 ・ 他の教科学習においても、算数科での良さを活かす指導・支援を試みる。 ・ <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育アドバイザーを継続的に招聘し、指導計画・学習材・学習具の開発・指導方法・評価などを研究する。 ・ 少人数授業による公開授業を行い、分割方法などの指導形態また、効果的な展開の方法など、指導の在り方などを研究していく。 ・ 算数科の基礎・基本の定着をはかるために、学習達成度の測定の方法の研究をする。 ・ 算数科のよさに関わる活動を、他教科、総合的な学習と関連づける。 ・ 加配教員をはじめ、できるだけ多くの教員が先進校を視察したり、府や市の教育センター主催の研修に積極的に参加し校内の研究に活かす。
--------	--

(3) 研究推進体制

実践研究組織図



- ・ きめ細やかな指導を効果的に研究・実践する校内体制を整理し、その中心に加配教員（学力向上フロンティアスクール担当者）を配置する。
- ・ 地域の窓口として地域連携部を設け、教育課程部、人権部、運営委員会、校内研究会など組織的に研究を進めた。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

「覚える」算数から「納得する」「身につく」「使える」算数へ

「分かる」＝「覚える」ことではなく、「なぜ、そのようにして計算できるのか」、自分なりに説明し、「なるほど」と納得できる解決を経験したときの成就感、喜びを感じさせたい。それが次に問題解決する意欲・関心を高めるものとなる。このように問題解決学習を通して、根拠を明らかにしながら筋道を立てて考えていく思考過程を大切に学習を進めていくことができた。

「味わえる」学習へ

「問い」を持ち問題に働きかける（算数的な活動）とき、新しいことが見えてくる。きまりを発見したり、筋道を立てて考えたり、算数の考え方のよさや美しさに気づいたり、みんなでよりよいものに創り上げていく楽しさを味わえるようになってきた。

「根のはった」学習へ

上記の学習を経験する中で、子どもたちは学ぶ楽しさを感じるとともに、自らの課題を発見することになる。計算などがスムーズにできないため、気づきを十分定着できない子どもたちは少なからずいる。そうした子どもたちが、自らの足場を固める反復練習などの必要性を感じるようになってきた。

児童の実態に応じた学習へ

今年度は、格差が広がり個々の課題がより明確になる高学年を中心に、加配教員2名が担当することで、1クラス2分割（T.T形態もとり入れる）、3分割など多様な指導形態とともに、きめ細かな指導ができた。

6年生を中心に進めた習熟度に応じた学習では、「わかる」項目について高い自己評価が得られた。（*資料参照）

2. 今後の課題

課題克服のためのきめ細かい指導と評価

「つかむ」「見通す」「解決する」「練り上げる」「まとめる」「つなげる」というように、系統的に基本的な学習過程を設定し、児童の実態に応じたきめ細やかな指導と評価規準・基準の作成、適切な支援の在り方の研究。

主体的な学びにつながる自己評価

子どもたち自身が「わかる」「楽しむ」「チャレンジする」の3観点で学習を振り返り、自分の課題を知り、その改善のための学習計画を立てたり、「主体的な学び」を意識し、基礎学力の向上に向けて取り組めるように、自己評価の充実を進める。

算数科から、他教科、総合的な学習へ

算数科のよさに関わる活動を、他教科、総合的な学習と関連づけ、学習に対する意欲や主体性を育む。

学力把握のための学校としての取り組み

学力調査	2004年学校効果調査
調査目的	生活を含めた学力調査
実施内容	生活、算数、国語 (5年)
時期	2月下旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 11 / 12 公開学習研究会
 テーマ『主体的に行動し、表現できる子どもの育成を目指す。』
 - わかる・楽しむ・チャレンジする -
 公開授業・6年算数「分数のかけ算」 少人数授業(発展的な学習) <各教室、算数学習室>
 ・5年総合的な学習「お米づくりはすばらしいわくわくドキドキ米体験」 <体育館>
 全体会(シンポジウム形式で)
 『未来の「学び」についての提言』
 コーディネーター 葛上秀文先生(鳴門教育大学)
 パネラー 6年生代表・保護者・地域の方
 教師 <体育館>
- ・ リーフレット作成、今年度の取り組み紹介資料作成、HP作成
- 12 / 9 「学力向上」研修会パネルディスカッションにて報告
 テーマ『授業改革に向けたさまざまなチャレンジ』
 ~フロンティアスクールからの発信~ <茨木市民総合センター>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | |
|----------------------|--|--|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7~12学級 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13~18学級 | <input type="checkbox"/> 19~24学級 |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導
一部教科担任制 | <input checked="" type="checkbox"/> T.Tによる指導
その他 |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 家庭科 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 その他 | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 |